



CONTENTS

- 新年のご挨拶…p.1
- 「新春座談会」どうなる?! 2019 年の合板業界・住宅建材業界…p.2～p.4
- JK 情報センター 需要動向予測調査「平成 30 年度第 4 四半期（1 月～3 月）見通し」／● 第 22 回雙環フォーラム…p.5
- イチオシ! Bulls「縁起物シリーズ」…p.7
- 今年の十干十二支「己亥」…p.8
- 商品情報
- 合板天気図

皆様には平素よりひとかたならぬご厚情・ご愛顧を賜り心より感謝申し上げます。本年も一層のサービス向上を目指し取り組んで参りますので宜しく願い申し上げます。

● 昨年を振り返り

昨年は西日本豪雨や大阪・北海道で発生した地震など甚大な自然災害も多かった一年でした。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

日本経済を振り返ると、日経平均株価は 2 万円以上と堅調に推移し、景気拡大はこの 1 月には戦後最長を更新する見通しとなっています。また深刻な人材不足から、昨今では AI 等を駆使した技術による自動化・省力化のニュースも盛んになって参りました。

一方で我々の住宅業界においては、新設住宅着工戸数は低金利が続いているにもかかわらず、前年を若干下回る推移となりました。これは貸家需要の増勢も収束したことに加えて、個人の住宅投資が漸減しているという実態を表しているとも言えるでしょう。

● これから起こる多くの変化

これまで続いた平成が今年の 4 月で終了し、5 月からはいよいよ新たな元号となります。振り返れば、平成の 30 年間はそのままデフレの 30 年間だったといえるのではないのでしょうか。新たな元号となり、いったいどのような時代に突入していくのでしょうか。

また、今年の 10 月には消費増税も予定されていますが、住宅業界に関して言えば、増税前に簡易なりフォーム等をしておこうとする消費者心理は既に少なからず働いているようで、各社ショールームの来場者数にも昨年末からその影響が出ているようです。一方の新築はというと、増税を理由に成約に持ち込もうとする動きが少なからずある中、反動減を最小限に止めるために政府が更なる追加支援策を講じようとしているのも実情です。但し、業界内では、前回の増税時のような駆け込み需要や反動減にはならないとの見方が大勢のようです。

そして来年には東京オリンピック・パラリンピックの開催、2025 年には大阪万博の開催が待っており、これら特需は国内景気にプラスに働くことは言うまでもありません。また、海外に目を向けると、米国発の貿



ジャパン建材株式会社
代表取締役社長 小川 明範

易摩擦や中国景気の減速など、海外リスクは厳然としてあり、これらが日本や ASEAN などの他国にまで及ぼす影響は決して軽微ではないでしょう。いずれにせよ、今年も単純にその景況感を見通せる環境とは言えないようです。

一方で明確なのは、「AI・IoT 活用」や「デジタル・オートメーション化」への推進力で、これは世界的にはとても勢いがあり、私達が日本国内で感じている以上にスピーディに進化し、これまでは想像すらしなかったような機器やサービスが続々と出現してくるであろうということです。またそれにより、更に多くの新しいビジネス・企業・雇用が創出され、『インダストリー 4.0』や『ソサエティ 5.0』の言葉にも表されるように、大きな変革の幕明けが現実的に肌身で感じられるようになるのも、そう遠くはないと思います。

● 新たな中期経営計画のはじまり

そのような環境下、私達 JK グループは今年度より新たな中期経営計画（3 カ年）を迎えます。昨年まで取り

あけましておめでとうございます。
皆様の御多幸をご祈念申し上げます。

組んできた中計『DJ2018』では、消費増税や東京オリ・パラ後の景気減速が予測される環境への対策を踏まえて準備をしてきました。具体的には、施工工事ネットワークの形成、非住宅木構造建築物への体制強化などに加え、快適住実会員やサポートセンターの機能強化です。また海外展開強化に向けての整備も進めてきました。全体を通して一定の成果は出せたのではないかと考えております。

2019 年度から新たに始まる 3 カ年計画(2019-2021)は、いよいよ上述の様な変化の渦中に突入する期間であり、これまでの対応策に加えて、今後は AI・IoT 等を活用したサービスを提供する企業との協業により、労働プロセスにおける生産性の飛躍的向上・配送の効率化・人手不足の補完・E コマース等への挑戦、また住宅設備との連動による利便性向上を目的としたデバイスの取り扱いなど、様々な分野において新たな挑戦をしていく所存です。

● 今年の十干十二支は「己亥（つちのとい）」

陰陽五行において「己」は“土”、「亥」は“水”となっており、これは対立・矛盾する二つのものが互いに相手に勝とうと争う「相克（ソウコク）」の年という解釈となり、対立や争いを象徴するそうです。一方、「己」の字は三本の平行線を形取ったもので、条理が整然としている状態、「亥」は草木の生命力が種の中で閉じ込められた状態だそうです。つまり、自己の内面にある本質的な部分を整然と正すべしと解釈できるわけです。

外部環境が見通しにくく、それが不穏な状態であったとしても、自身を整え、あるべき姿を思い描き、やるべきことを肅々と実行すべしと心得て、私達 JK グループ社員一同、今年も心機一転、新たな節目として相応しい一年になるように、努力邁進していく所存です。

本年も旧年に倍するお引き立て並びにご指導・ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

平成 31 年 3 月 15 日(金)・16 日(土)
第 41 回 ジャパン建材フェア
東京ビッグサイト西展示棟 1・2 にて

新 春 座 談 会

どうなる?!

2019 年の合板業界・住宅建材業界

昨年まで JK 合板会機関誌「JK 合板会」新春号に掲載されていた「合板会 新春座談会」からの抜粋記事をご紹介しますが、本年よりジャパン建材主催「新春座談会」と名称を改め、本誌に全談話内容を掲載しています。

司会◆日頃は多大なご支援を賜りありがとうございます。また本日は「新春座談会」にご出席いただき感謝申し上げます。本日の司会を務めさせていただきますジャパン建材合板部猪爪です。どうぞ宜しくお願いします。

開会にあたり、代表取締役社長小川よりご挨拶申し上げます。

【小川社長】

ご多忙の中、「新春座談会」にお集まりいただきありがとうございます。

おかげさまで旧年中は、ほぼ計画どおり進捗させていただきました。

この座談会で皆様の予想される合板供給量や新設住宅着工戸数の確度が高く、お客様はじめ仕入先様からも大きな反響をいただき、おかげさまで業界内でも注目される記事となっております。また本年より、座談会名称を「新春座談会」とし、これまでに比べて、さらに多くの読者に向けて、より肉厚の情報をお届けすることができると思います。

本日は宜しくお願いします。

2019 年新設住宅着工戸数と木造住宅着工戸数の予想

司会◆2019 年 1 月から 12 月までの新設住宅着工戸数と木造住宅着工戸数に分けた予想をお聞かせください。福田取締役からお願いします。

【福田取締役】

2018 年が 94 万戸、2019 年は対前年比 1.6%減の 92 万 5,000 戸程度と予想しています。

利用関係別では、持家が 28.5 万戸、貸家が 38.0 万戸、分譲住宅は 25.5 万戸程度と予想します。貸家は、節税需要の一巡、金融庁によるアパートローンの監視強化により低調な推移が予想されますが、持家と分譲戸建てについては、駆込み需要の影響もあり増加すると思います。

木造比率は 56.9%で、着工数は 53 万戸程度。トレンドは 2018 年と同じと見ています。

【大西社長】

2018 年の着地点を 94 万戸と見て、2019 年も同程度に届くと見ていましたが、マイナス要素が幾つかあるので、2019 年の新設住宅着工戸数は 93 万戸としました。

2019 年 10 月に予定されている消費税増税、その前の駆け込み需要もあるでしょうが、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを控えて首都圏の土地価格の高騰等でマンション販売価格上昇により販売量が鈍化していること、また、ここ数年の新設住宅着工戸数を牽引してきた貸家の着工数がやや鈍ってきていることもありますので、対前年比では微減になるのではないかと予想しています。

木造住宅着工戸数については、木造化は進んではいますが、大きく増える段階にはまだ至っておらず、大きい変化はないと見て、53 万戸程度を予想しています。

【田中社長】

2018 年の新設住宅着工戸数 93 万戸～94 万戸、2019 年は 92 万戸を予測しています。

まず金融機関による融資引締めから貸家着工戸数の落ち込みと、都心の土地手当ての難しさからマンションの苦戦が予想されます。しかしながら、低金利が継続されていることから消費税増税前の駆け込み需要が期待でき、持家・戸建て分譲については増加を予想しています。その結果、木造住宅着工戸数は 52 万戸～53 万戸、木造比率 57%という数字にしました。

【柴田社長】

前回、2014 年 4 月 1 日の消費税増税の時を振り返ってみますと、増税 1 年前の 2013 年 4 月～6 月の着工数対前年同期比は 111%でした。今回（2019 年 10 月実施予定）の増税に当てはめると、ちょうど 2018 年 10 月～12 月に相当します。この時点で対前年同期比 111%には全然達していません。これは、今回は駆け込み需要の波の振幅が前回ほど大きくはないということの意味していると思います。さらに前回増税前の 9 ヶ月～7 ヶ月前で対前年同期比は 113%、次の 3 ヶ月も 113%、増税直前の 3 ヶ月間は 104%でした。消費税増税による住宅着工戸数の伸びは、前回の例から 2019 年 7～8 月には終わることになります。

では、前回の消費税増税後の 3 ヶ月でどのような変化が起きたかを見てみると、対前期比 86%。これを今回の増税に当てはめてみると、2019 年 1 月～3 月の対前期比は 113%、4 月～6 月が 113%、7 月～9 月には 104%、10 月～12 月は 86%ということになりますが、これ以下の振幅となるでしょう。

しかし、間違いなく駆け込み需要は戸建分譲／持家で出てきます。

貸家の新設着工数が減るといったマイナス面を加味しても、2019 年は前年に比べて若干増えて 95 万戸程度ではないかと思います。

木造住宅着工戸数は、95 万戸の新設住宅着工戸数をベースにして 54 万戸と見ています。

【角柄社長】

2019 年は、94 万戸程度と見ています。と言いますのも、米中貿易摩擦問題等の世界経済の懸念材料はありますが、2019 年の日本の経済は基本的に悪くはないだろうと考えています。各企業の業績は堅調に続くという前提で、10 月の消費税増税に関して、一定の駆け込み需要が発生するものの、その緩和策がいろいろと打ち出されていますので大きな変動にはならない、従って反動減も限定的ではないかと考えています。一方、トレンドとしての新設住宅着工戸数の低減傾向は変わらず、駆け込み需要分も加味して土した程度の数字になると予想しています。木造住宅比率は前年並みの 57%で、54 万戸を見込んでいます。

司会◆ありがとうございました。ジャパン建材としての予想を、小川社長、お願いします。

【小川社長】

2019 年の新設住宅着工戸数が 93 万戸で、木造住宅着工戸数が 53 万戸で、要因については皆様と同じ考え方です。

国内・輸入合板の供給量予想

司会◆では次に、国内合板と輸入合板それぞれの供給量予想について、お聞かせください。大西社長様

出席者（社名 50 音順）				
伊藤忠建材株式会社	代表取締役社長	柴田 敏晶	様	
SMB 建材株式会社	代表取締役社長	角柄 明彦	様	
住友林業株式会社	取締役常務執行役員	福田 晃久	様	
双日建材株式会社	代表取締役社長	大西 哲也	様	
トーヨーマテリア株式会社	代表取締役社長	田中 元浩	様	
ジャパン建材株式会社	代表取締役社長	小川 明範	様	
司会：ジャパン建材株式会社 合板部 部長		猪爪 清和		

から、お願いします。

【大西社長】

まず、輸入合板ですが、2018 年 10 月の供給量が予想よりも多い数字で出てきましたので、それを加味すると 2018 年はおそらく 285 万 m³が着地点と予想しています。これは、2017 年の輸入合板供給量が 290 万 m³でしたので、前年対比約 98%になります。そして 2019 年の輸入合板供給量はさらに約 5%減少して、270 万 m³を予想しています。

要因としては、マレーシアの原木供給量の減少傾向に歯止めがかからないこと、特に政権交代したサバ州では、未だ回復の見通しが立っていないということで全体として生産量は減少すると見えています。一方、インドネシアでは植林木の利用が進み、若干の増加はあろうかと思いますが、その他のベトナムや中国の量は少ないですが、大きく増える要素はなく横ばい。従い、マレーシアの減少分が輸入量の減少につながると見えています。

国産合板の 2018 年の着地点は 320 万 m³くらいで、2017 年のほぼ横ばいではないかと見えています。2019 年は、キーテック山梨工場と新栄合板工業大分工場の新しい 2 工場も動きだしますので国産合板は 330 万 m³。フロア合板の国産化が加速することで国産合板の比率が高まると予想しています。

【田中社長】

先程、皆さんから新設住宅着工戸数の予想で 93 万戸～95 万戸という数字が出ました。これは、我々の業界にとってけっして悪くない数字だと思います。従って 2019 年の合板に関しても、新設住宅着工数によって変わる形で新年も底堅い荷動きを予測しています。

2019 年の国産合板の供給量は 335 万 m³、旺盛な国産合板の需要は続くと予測しています。非構造用用途の開発や、耐震性の視点からの筋かいをパネル工法へ転換する需要が高まると考えられます。さらに、合板新工場の生産量も加算した数字で予測しています。

一方、2019 年の輸入合板供給量の総量は 270 万 m³、主要な国別では中国が 63 万 m³の横ばい、インドネシアが 90 万 m³で減少、マレーシアは 93 万 m³で減少、ベトナム 22 万 m³で微増と、各国からの入荷を予測しています。産地各国の政策次第で予測が難しい状況ですが、現地の原木伐採規制や、それに伴う南洋材合板の価格高騰は南洋材合板離れ、特にフロア合板の材料など原材料として使用される工場への直需向けの減少につながると考えられます。

2019 年は、国産針葉樹合板や他のボード類など南洋材合板以外への代替品シフトがさらに進む年になるかと思われます。TPP 発効により一部の国からの関税率が半減となるものの、すでに国産合板、輸入合板、ボード類の用途別棲み分けが確立されていることと、現地サイドの原料手当ての問題もあり、数量への影響はさほどないのではないかと見えています。

【柴田社長】

大西社長と同じく、2018 年の輸入合板供給量 285 万 m³と国産合板供給量 320 万 m³、総供給量 605 万 m³をベースに考えて、2019 年も総供給量はほぼ同じだ



伊藤忠建材株式会社
代表取締役社長
柴田 敏晶 様



SMB 建材株式会社
代表取締役社長
角柄 明彦 様



住友林業株式会社
取締役常務執行役員
福田 晃久 様



双日建材株式会社
代表取締役社長
大西 哲也 様



トーヨーマテリア株式会社
代表取締役社長
田中 元浩 様



ジャパン建材株式会社
代表取締役社長
小川 明範

2019 年 新設住宅・木造住宅着工・合板供給量予想

	新設住宅着工戸数	木造住宅着工戸数	国産合板／輸入合板
柴田社長	95 万戸程度	54 万戸	330 万㎡／ 275 万㎡
角柄社長	94 万戸程度	54 万戸	330 万㎡／ 275 万㎡
福田取締役	92.5 万戸程度	53 万戸程度	325 万㎡／ 270 万㎡
大西社長	93 万戸	53 万戸程度	330 万㎡／ 270 万㎡
田中社長	92 万戸	52 万戸～ 53 万戸	335 万㎡／ 270 万㎡
ジャパン建材	93 万戸	53 万戸	330 万㎡／ 270 万㎡

と思います。その中で輸入合板がマレーシアを中心に 10 万㎡程度減るだろうと見ています。ベトナムはユーカリを使った低級合板が伸びていまして、2018 年は対前年比 44％アップ。この傾向は今後も続くでしょうから、ベトナムは伸びるであろうと見ています。

国産合板については、新たな 2 工場の生産量が増えると思いますが、一方、東京ボードのフロアや構造用製品がおそらく新年春ころから出てくることで、需要は増えるけれども、合板需要量のマイナス要因になる可能性もあると思います。

2019 年は輸入合板 275 万㎡、国産合板 330 万㎡で供給総量は 605 万㎡と、前年とほぼ同じ数字になると見ます。

加えて注目すべきは、針葉樹合板のうち非構造用合板がどのくらいになるかということです。これは私の試算ですが、2017 年の平均では、フロアとコンパネなどの非構造用合板が月 11,000㎡くらいの需要がありました。それが 2018 年には約 18,000㎡に伸びています。2019 年は、おそらく非構造用合板が 2 万㎡くらいに増えると思います。

特に輸入合板に関しては、マレーシアはコストが合っていないので、かなり数量的に厳しくなると思います。

【角柄社長】

2018 年見込みは、国産合板 322 万㎡、輸入合板 283 万㎡、合計 605 万㎡。これに対して 2019 年見込みは、国産合板 330 万㎡、輸入合板 275 万㎡、合計 605 万㎡で、合計ベースでは 2018 年と変わらないのではないかと予想しています。

皆さんのお話とほぼ同じですが、国産合板については、新設 2 工場が春から稼働されるということで増量を見込んでいます。その中で、従来は輸入合板で対応してきたフロア台板や構造用合板等が国産合板に一層代わっていくと見ています。一方、輸入合板については、マレーシアはコストがなかなか合わないということで減少、インドネシアは、米国向けの輸出等いろいろな要因があって不安定、中国とベトナムはほぼ横ばいではなかろうかと見ています。従って全体的には輸入合板が減って、国産合板が増えるかと予想しています。

【福田取締役】

2018 年は、国産合板が 321 万㎡、輸入合板が 283 万㎡、合計では 604 万㎡と見ています。

2019 年は、国産合板は新設工場の稼働、フロア台板・塗装型枠・家具用芯材等、新しい用途向けの供給拡大により増加し、325 万㎡と予想しています。

輸入合板は、産地の違法伐採対策に加え、天候不順の常態化、伐採の奥地化等による原木生産量の減少、原木価格高騰により、5％程度減少し 270 万㎡、合計では 2％程度減少して 595 万㎡と見ています。

司会◆ありがとうございます。

ジャパン建材としての国産・輸入合板供給量の予想は、2018 年は合計 605 万㎡、うち国産合板が 320 万㎡、輸入合板は 285 万㎡と見ています。これに対し 2019 年は、国産合板は 330 万㎡、輸入合板は 270 万㎡で、合計 600 万㎡を見込んでいます。

国産合板は木材自給率を上げる政策の後押しもあり、フロア台板、さらに新規用途がますます増えてくると思われ、また 2019 年には大分県と山梨県に合板の新工場が完成して全体の生産キャパは増えていきますが、労働力の問題等もあり、全体としては微増と見ています。

輸入合板については、現地の天候不良に加え、環境問題や環境規制は今後ますます厳しくなっていくと思われ、原材料が増えることは考えにくく、供給量は減っていくことが予想されます。

平成 30 年度 通期決算予想

司会◆差し支えない範囲で通期決算予想をお聞かせください。柴田社長様、お願いします。

【柴田社長】

通期単体売上見込は 3,060 億円、経常利益 33 億円です。通期連結売上は 3,260 億円、経常利益 40 億円の予測です。

【角柄社長】

SMB 建材は 2017 年 1 月に旧三井住商建材と旧丸紅建材が統合して発足、実質 2 期目となる 2018 年度の通期売上は 3,516 億円、経常利益約 19 億円の見通しです。これらは共に単体の数字になります。前年度に比べ、合板を含む木質素材関係分野、或いは請負工事・建設資材分野が増収の見込みです。経常利益は、昨年度に比べ統合に関わる費用が減少していることなどがプラスに作用する見込みです。

【福田取締役】

連結通期売上は 1 兆 3,100 億円、経常利益は 575 億円の予想です。

木材建材セグメントの通期売上は 4,855 億円、経常利益 80 億円、国内住宅・建築事業セグメントは通期売上 4,600 億円、経常利益 240 億円。海外住宅・不動産セグメントは、豪州住宅事業のマイナスを米国住宅事業の拡大でカバーし増収増益となり、通期売上 3,650 億円、経常利益 255 億円。介護事業や山林事業、発電所事業をその他としていますが、なかでもバイオマス発電所の新設が増えて伸び、通期売上 425 億円、経常利益 55 億円の予想です。

【大西社長】

通期売上 1,700 億円、経常利益 12 億円を予想しています。上期は想定よりもビハインドとなっておりましてけれども、下期で挽回して前年度比微増となって

います。

【田中社長】

通期売上予測は 295 億円、経常利益 9,500 万円です。

司会◆ありがとうございます。ジャパン建材の売上見通しを、小川社長、お願いします。

【小川社長】

単体の通期売上計画は 2,790 億円、経常利益 34 億円です。おかげさまでこの数字で着地できる見通しです。

平成 30 年度 通期の合板実績予想

司会◆次に合板の実績について、わかる範囲で、角柄社長様、お願いします。

【角柄社長】

国産合板 345 億円、輸入合板 315 億円、合計 660 億円を見込んでいます。先程申し上げた単体通期売上見込みのうち 18.7％を合板売上が占めるだろうという見通しで、この比率はほぼ前年度と変更がありません。輸入合板の取扱金額は価格上昇等の要因もあり前年度比増加、国産合板については前年度比横ばいか微増という見通しです。

【福田取締役】

輸入合板が 424 億円、国産合板が 219 億円、合計 643 億円程度になると予想しています。

【大西社長】

通期で輸入合板が 280 億円、国産合板 370 億円、合計 650 億円程度の見通しです。

輸入合板は、販売単価の上昇やファルカタ合板が増加しています。国産合板については、販価はほぼ横ばいですが、当社は針葉樹塗装型枠用合板「ドルフィンコート」の販売増加が、売上増加の主な要因です。

【田中社長】

国産合板売上が 58 億円、輸入合板が 72 億円、合計 130 億円。輸入合板は、単価は上がりましたが、当社取引先のシッパーサイドの伐採規制等により入荷が滞っていることもあり、昨年よりも仕入量が減少しています。国産比率が 45％と、世の中の流れに従って国産比率が少しずつ上がってきていると思います。

【柴田社長】

輸入合板が 210 億円、国産合板が 370 億円で合計 580 億円。基本的に、国産と輸入を 2 対 1 の割合を継続していきます。

司会◆ありがとうございます。

ジャパン建材合板群の実績を私から報告させていただきます。上期実績は 392 億円の結果となっています。下期は 413 億円、通期合板群実績 805 億円を見込んでいます。当社の国産比率も世の中の流れに従って順調に上がってきていまして、前年度が 52.5％だったのに対して、平成 31 年度には 55％まで伸びる見込みです。

2019 年の業界動向
および合板景気予想

司会◆それでは、2019 年の業界動向および合板景気について、お聞かせいただければと思います。田中社長様、宜しくお願いします。

【田中社長】

世界を見ますと、これまで世界の好景気を支えてい



た米国・中国の2大国間における貿易戦争や欧州のBrexit（ブレグジット）問題など、世界における不透明感が日本経済に与える影響が不安視されています。日本国内では、日銀の量的緩和は継続されるものと予測され、住宅ローンも低金利で推移すると思われます。2020年に控えています東京オリンピック・パラリンピック、先ごろ決定された2025年の大阪万博の開催などの好材料が、消費者マインドを復活させるのではないかと思います。

先程、柴田社長が詳しく仰っていましたが、過去2回の消費税増税時は、新設住宅着工戸数がそれぞれ前年比111%と大幅に伸び、増税の翌年はその反動減からそれぞれ84%と、91%に減少しました。今回は国による消費税増税後の反動減抑制策もあり、過去2回の時ほどの駆け込み需要の伸びはないものの、持家や分譲の新設住宅着工戸数の増加は見込めます。しかし、これまで相続税対策により着工戸数を伸ばしてきた貸家については、融資が厳格化され、特に地方での着工数減速、また都心部では土地手当てが難しくマンションの苦戦が予想されることから、先程お話ししたように2019年は2018年と同等の着工戸数を予測しています。

2020東京オリンピック・パラリンピック関連施設、ホテル・大型商業施設等の周辺整備、さらに都心以外でもインバウンド効果からホテル・大型商業施設等の建設に向け活発な動きが予想されます。加えて、学校等の公共物件の木造化にさらなる需要開拓も期待できます。こうした好材料によって2019年は当業界にとっては比較的明るい年になると予測しています。

ただし、消費税増税後の反動減を見据え、高付加価値商品など新たな商材や商流構築が急務の年となるのではないかと、また職人不足や資材の高騰はひきつづき問題になると思われ、省人化、工程短縮が求められるのではないのでしょうか。さらに、これまで以上に物流が我々にとって大きなネックになる年ではないかと予測しています。

【柴田社長】

2019年3月末日までに住宅の請負契約をすれば消費税増税後の10月以降の引渡しでも消費税率8%が適用されることになっているので、10月以降に工事がずれ込むものが多くなる可能性があります。したがって、2019年中は、そこそこの需要が見込めるとみて良いのではないのでしょうか。

一方、リフォームに関しては現金支払がメインであり、新設住宅のような消費税増税後の反動減抑制策の効果がなため、駆け込み需要がかなり出てくる可能性があると思います。特に水廻りの需要増に期待しているところです。

野帳場については、オリンピック関連需要の最後の年になり、ひきつづき順調な需要はつづくと思いますので、これも期待しています。

また最近是人手不足から工事力・配送力が非常に大きな問題になっていますので、このポイントを押

さえることがより大事な年になるのではないかと思います。また、新しい流れとしてZEH。IT関係では、車のコネクテッドカー、家と言えばコネクテッドホーム。さらに住宅建築の設計・施工の効率化を図るBIM（ビルディングインフォメーションモデリング）も徐々に出てくるでしょうし、こうしたIT関連に我々がどうかかわっていくかということも大事な一年になるのではないのでしょうか。

【角柄社長】

2019年の住宅建設業界は、引き続き環境問題、ZEH対応、或いは職人不足に対応する省施工が大きなテーマになると同時に、ESGに対応した、国産材の使用等がテーマになってくると思います。

加えて、柴田社長のお話と重複しますが、AI、IoT、RPA等、いわゆるDX（デジタルトランスフォーメーション）等もキーワードで、こうしたものに乗り遅れないようにしていくことが業界にとって必要な年になるのではないかと思います。そのような状況の中、スマートウエルネス住宅やコネクテッドホーム等、国交省が提唱している未来型住宅が改めて具体化されて市場に出てくるのではないかと思います。流通業界においてはICタグ活用やドローン活用、こうしたデジタル化の波が押し寄せてくる年になるかと思っています。

国産材活用に関しては、木構造建築にゼネコン各社も本格的に取り組み始めており、原料としてのCLTやLVLの需要も増えてくるのではないかと、また従来の公共物件に加えて、民間の商業施設あるいはオフィスビルの中で更に木材の使用比率が高まってくるのではないかと考えています。

大型施設関連では、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2025年の大阪万博、更に2026年の愛知でのアジア大会などが続くこともプラス要因として需要・業界を盛り上げるのではないのでしょうか。

【福田取締役】

すでに皆さんからお話がありましたが、特にリフォームについては、消費税増税前の駆け込み需要が大きく伸びると予想しています。

なかでも空家対策リフォームが増えていますので、ここがますます伸びる分野だと思われます。

非住宅分野に関しては、皆さんのお話にもありましたように、かなり力強く伸びていくと思います。

【大西社長】

業界動向予測としては、まずは消費税増税前の駆け込み需要がテーマになりますけれども、参議院選等も控えるなかで、税率アップ後の反動減による冷え込みを防ぐ策もいろいろ実施され、景気の波は山も谷もそれほど大きくはならないだろうと見ています。

合板動向については、輸入合板は安定供給や環境配慮の観点から、さらに植林木合板が中心になっていくと思います。また国産合板については、型枠合板やフロア台板、下地合板など従来は輸入合板を使用していた分野にも、国産針葉樹合板の使用がさら

に進んでいくのではないかと見ています。

全体的には、ますます企業の社会的責任・環境への配慮・ガバナンスが企業評価の基準となるESG投資への関心が高まっていますので、木材関連業界においても対応が急がれているのではないかと思います。

双日グループは3年前より「木材調達方針」を定め、全てのサプライヤーの検証を行っていますが、認証材、国産材、植林木等の需要が更に高まってくるでしょうから、そういったものの確保になお一層努めてまいります。また昨今、海外への建材メーカー進出等もありますので、そのお手伝いがどのようにできるかも、我々建材商社の大事な役割の一つになると思います。

司会◆さまざまな角度から分析いただきありがとうございました。

結びに、小川より、業界動向予想と、本日のお礼を述べさせていただきます。

【小川社長】

業界動向については、ほぼ皆さんと同じ見方をしています。まず消費税増税の影響は限定的だと思います。それを新築住宅需要とリフォーム需要に分けてお話ししたいと思います。

まず新築需要は、一部の建築会社さんにおいて、駆け込みを助長するような動きはあるものの、一般的な工務店様への影響は限定的ではないかと思っています。一方、リフォームに関しては、お施主様が消費税率10%になる前に設備を更新しておきたいという気持ちが既に出てきているようです。ですから、個人の住宅投資は限定的になるなかで、我々としては、非住宅分野や、リフォーム分野、あるいは海外へ目を向けてチャレンジしていくことが必要になってくるだろうと思います。

私どもジャパン建材のお客様である、地域密着で活躍されている木材・建材販売店の皆様が、今後の活躍の場をどこに見つけていくべきかといえば、住宅建築分野だけでなく、地場ゼネコンさんとの非住宅分野での協業ですとか、場合によっては老人保健施設等の施設建設だけでなく、施設運営にまで踏み込むソフト面へのチャレンジも考えられます。住宅だけではなく、住まい手の生活全般にかかわるハード面とソフト面の両面に取り組まれる方が、今後は増えていくのではないかと考えています。

もう一つは、先程もお話にありましたIoT活用がポイントになると思います。具体的には、住宅設備として入ってくるテクノロジーとしてのものと、企業の生産性を上げるためのワークフローにかかわってくるものに分けて考える必要があります。そういったものに我々の考えている以上に、2019年以降は積極的に継続的に取り組んでいく必要性が高まってくるのではないかと感じています。

また、職人不足・ドライバー不足等の人手不足は、高齢者活用や海外からの人手も活用しながら補っていかなければ解消しにくい問題です。そういった課題を解決に導くように努力することも、我々流通にかかわる者の役割の一つではないかと考えています。

業界としても変化すべき差し迫った局面に置かれていますので、業界あげての旗振り役となればと考えています。そのためにも、本年以降の合板を中心としたお取引の中でより強固な関係構築をさせていただくとともに、皆様方の知見や見通しを共有させていただくことで、さらなる共存の強化を図りたいと思います。改めてご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。

司会◆長時間にわたり、多面的に2019年の合板業界・住宅建材業界についてお聞かせいただきありがとうございました。本日の内容を参考に、2019年も販売に注力してまいります。

今後ともご支援の程宜しく願い申し上げます。

平成 30 年度第 4 四半期（1 月～ 3 月）見通し

●工務店様による需要予測

国土交通省より 9 月の新設住宅着工総数が発表された。総数で前年比 98.5%、利用関係別では貸家のみが大きく前年を割った。今年 1 ～ 9 月の累計でみると約 69.6 万戸と前年比 96.7%にて推移。利用関係別では持家 98.1%・貸家 95.2%・分譲 96.8%と不調ながら、分譲一戸建ては 102.5%、持家も 7 ～ 9 月の直近 3 ヶ月では 100.1%と回復傾向にはある。地域別でみると、首都圏以北の東日本では青森・岩手・秋田・山形の東北 4 県以外はすべて前年を割り、一方で西日本は中部・関西エリアを中心に順調に推移し西高東低の様相である。

このような環境下、平成 30 年第 4 四半期（1 月～ 3 月）の需要予測がまとまった。前年同期比で工務店段階では + 0.3 ポイント増加傾向の見通しとなった。当アンケートとしては平成 28 年第 1 四半期以来の約 3 年振りのプラス回答である。当時を振り返ると消費税 8%増税後の落ち込みからの回復期に当たり、駆け込み需要を意識し始める現状と被る部分がある。エリア別でみると中部・近畿・中国・四国・九州と、着工数と同様に西日本エリアにて工務店の増加傾向の回答が集まった。

過去の増税前後の動向を振り返ると山の高さよりも谷の深さの方が大きい。少子高齢化・相続問題・空き家問題・省エネ対策と業界を取り巻く環境には変わりはない。次の需要予測ではこの駆け込み需要という山の高さが伺えるのか期待して臨みたい。

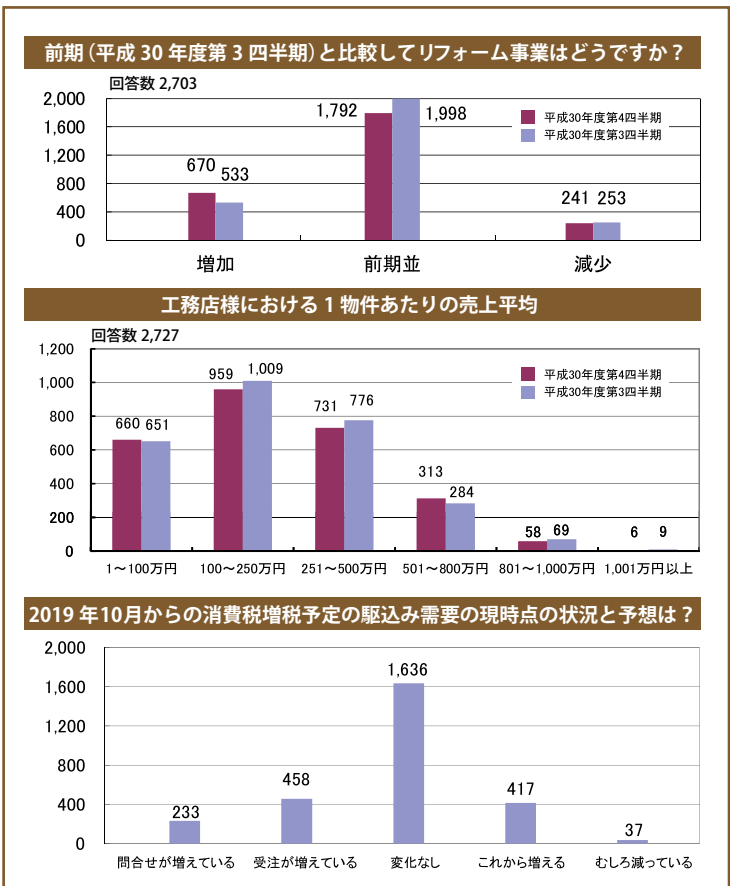
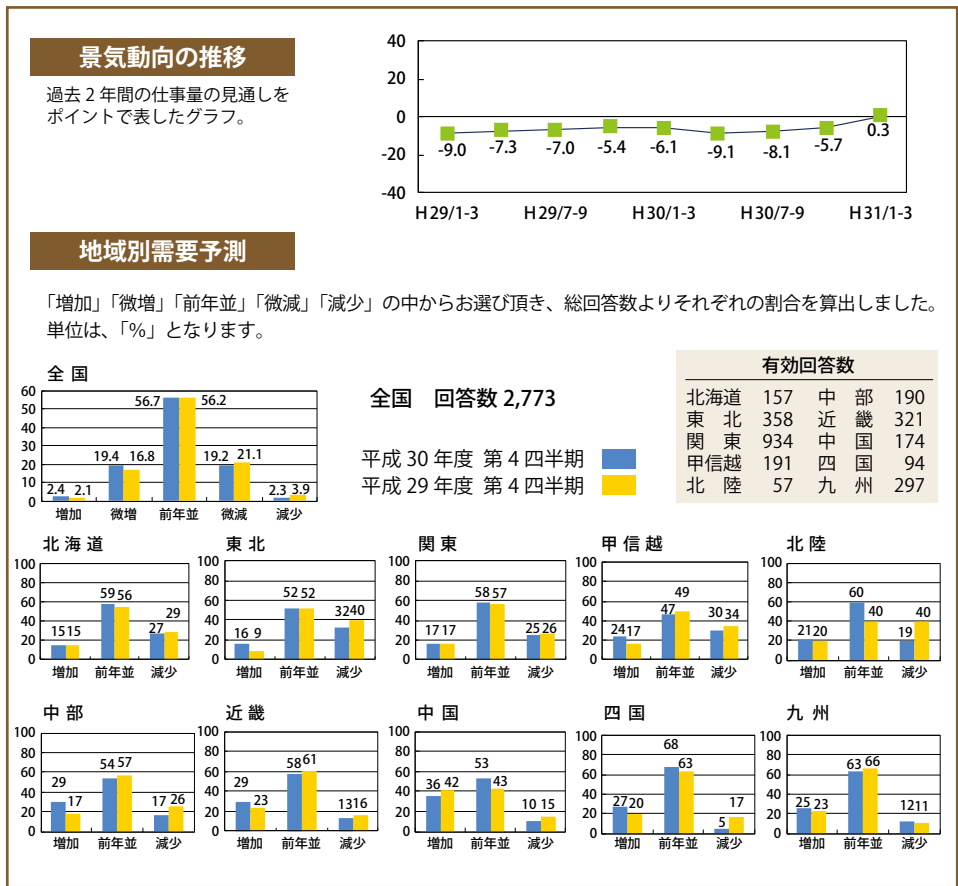
●主要メーカーによる販売予測

主力メーカーの販売予測は窯業・断熱分野が大きく増加予測となり、その他 3 分野は総じて前年並みとみている傾向。木材 4 分野は全て前回比でプラス回答が増えており、工務店・販売店予測のプラス回答とのギャップに今後も注目したい。

	増加予測	前年並予測	減少予測
合板	21.8%	59.0%	19.2%
木質建材	35.1%	29.8%	35.1%
窯業・断熱	34.8%	51.8%	13.4%
住設機器	26.4%	47.2%	26.4%

●リフォームの現状

リフォーム・リノベーションの動向は全国的に見ても増加傾向が強まった。若干ながら低価格帯の予算案件が増えており、ここにも駆け込み需要の兆しが表れているのかもしれない。駆け込み需要への問いでは、変化なしとの回答が過半を占めているが、次回調査ではどのような変化が表れるのか注目である。



「工務店で建てたい！」というお客様を

一人でも増やすため、集客に関するサービスを起点に、引き渡し後のアフターメンテナンスまで、ご用意しています。次のお客様へとつながる、一貫したサポートサービスを提供します。

快適住実の家

CREATE MORE COMFORT

公式 WEB サイトも随時更新中！

ジャパン建材株式会社『快適住実の家』本部事務局
東京都江東区新木場 1-7-22 新木場タワー 11 階 TEL 03-5534-0651

第 22 回雙環フォーラム開催

2018年12月11日(火)、本社新木場タワー1 階大ホールにて、第22回雙環フォーラムを開催しました。株式会社ブルースタジオ クリエイティブディレクター 専務取締役の大島芳彦様をお招きし、『つくる時代からつかいこなす時代へ 偉大なる「日常」の発見』と題し、講演していただきました。

暮らしの価値は敷地ではなくコミュニケーションである。ただ古くなった物件を改築するのではなく、人との関わりをもデザインし、住む人の「物語」を作っていくことがリノベーションであるというお話をしていただきました。手がけられた事例をご紹介されながらの講演でしたので、実際の住居者同士のつながりや、街全体の雰囲気がよく伝わり、コミュニケーションの価値というものを感じることができました。参加された皆様におかれましては、「リノベーション」という言葉の意味が少なからず変化したのではないのでしょうか。

毎回、様々なジャンルのゲストをお招きし、ご好評を頂いております雙環フォーラム。次回は 2019 年 5 月 15 日(水)に開催いたします。ぜひお楽しみに！

雙環フォーラムとは？
企業の経営者として必要な「人間力」の向上を図るための講演会。
発足年の平成 20 年、20 年先の長期的視野で考える場所、「200 年住宅ビジョン」にも対応していきたいという意味を込めて「2＝雙／0＝環」と名付けられました。

無垢の表情が美しい、個性際立つブラインド WOOD BLIND ウッドブラインド

トソー株式会社

窓辺の家具をつくりました

上質な木の家具が木目の表情を大切にするように、TOSOのウッドブラインドも天然木の存在感を生かせるよう加工方法をこだわり抜きました。日本人に最も親しみのある木の家具の特長をそのままに、その手触りやぬくもりを窓辺のインテリアとしてご提案致します。



EARTH (アース)

【天然木ならではの豊かな個性】

「アース」の最大の特徴は自然の木をそのまま生かしていること。それぞれの木の節や筋など異なる表情が、世界に1つだけのブラインドを生み出します。加工を極力抑えたスラットが無垢材の家具のような存在感を演出します。



※節や筋などの入り方は製品ごとに異なります。ご指定はできません。

桐(キリ)

【桐本来の美しさを味わえる】

木目が生きる自然な塗装でナチュラルに仕上げた「桐」シリーズ。桐本来の白みがかった明るい色味や柔らかな木目をお楽しみいただけます。桐材は日本で古くから親しまれており、純和室はもちろん、和モダン空間や洋室まで様々なインテリアに馴染みます。



【軽量で大きな窓に最適】

桐の最大の特徴は軽量であることです。他の木製ブラインドに比べて操作が軽く、大きな掃き出し窓にもお勧めです。



ウイルスの気になる季節は次亜塩素酸 空間除菌脱臭機「ジアイーノ」で空気を洗う

次亜塩素酸
空間除菌脱臭機

ziaino ジアイーノ

パナソニック株式会社 エコソリューションズ社

菌・ウイルス・ニオイ対策を本気で考える方、「次亜塩素酸」で空気を洗いませんか？

「次亜塩素酸」とはウイルス対策にいまもっとも注目されている有効成分です。すでに介護施設、保育園・幼稚園、病院、ペットショップ等でジアイーノが選ばれており、衛生管理・ニオイ対策が必要な空間におすすめです。

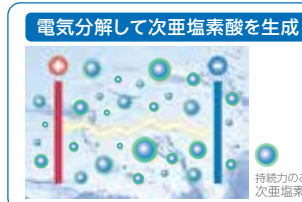


コンパクトタイプ

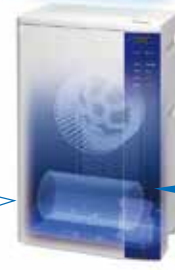
適用床
面積の目安
~40m²
(24畳)

【次亜塩素酸（電解水）を含浸したフィルターに
汚れた空気を通過させる「気液接触方式」で除菌・脱臭します。】

食塩水を電気分解することで、高い除菌・脱臭力のある次亜塩素酸（電解水）が生成されます。次亜塩素酸（電解水）を含浸した除菌フィルターに空気を通過させる「気液接触方式」で、回収した空気をすばやく除菌・脱臭します。



次亜塩素酸が
揮発して
床や壁の
付着菌抑制



汚れた空気を
フィルターで
除菌・脱臭

★実使用空間での検証結果ではありません。

※＜浮遊ウイルス＞【試験機関】（一財）北里環境科学センター 【試験方法】25m³の試験空間で浮遊ウイルス数の変化を測定
【抑制の方法】F-JML30-Wを強運転 【試験対象】浮遊したウイルス 【試験結果】15分後に99%抑制を確認 北生2015_3136
＜付着菌＞【試験機関】（一財）北里環境科学センター 【試験方法】23m³の試験空間で付着菌数の変化を測定【除菌の方法】F-JML30-Wを強運転
【試験対象】付着した菌 【試験結果】4時間後に99%抑制を確認 北生2015_1149

ハートシステム

住宅完成保証の新しい常識

施主様の建築資金を
全額保護

家づくりに必要なお施主様の建築資金を
すべて直接お預かりし、
建築中の工事の中断や事故の有無にかかわらず
取引会社さん・職人さんへ
直接支払される唯一のシステムです。

株式会社ハウス・デポ・ジャパン
www.heart-system.org



おかげさまで、5拠点となりました。
本年もよろしくお願い致します。

○本社 〒103-0023
東京都中央区日本橋本町1-1-8
KDX新日本橋ビル9階

○札幌営業所 〒064-0821
北海道札幌市中央区北1条西20-1-27
井門札幌N120ビル3階C号

○名古屋営業所 〒461-0005
愛知県名古屋市東区東桜2-5-11
シェーネルビル402号室

○大阪営業所 〒530-0047
大阪府大阪市北区西天満2-6-8
堂島ビルディング705号室

○福岡営業所 〒810-0042
福岡県福岡市中央区赤坂1-5-11
アバンダント89 501号室

お問合せ・お申込みは・・・

【三井物産・JKホールディングスグループ企業】

HOUSE
DEPOT
PARTNERS

株式会社ハウス・デポ・パートナーズ
フリーダイヤル:0120-887-800
Mail:hdp@housedepot-p.co.jp
担当:営業部 尾崎 荒谷 伊東 北野
伊坂 村田 網田

貸金業登録番号 関東財務局長(1)第01508号
日本貸金業協会会員 第005893号

縁起物シリーズ

新年あけましておめでとうございます。
今年も「イチオシ! Bulls」をよろしくお願いいたします。
さて、皆さん初詣には行かれたでしょうか？
初詣と言えば神様、神様と言えば縁起物... ということで、多少強引ではございますが、今回は縁起物を取りあげたいと思います。
Bulls 商品を活用して、今年も良い年になりますように。

上棟セット

建前に欠かすことのできない上等品。
古式にのっとり、どなたにでも手軽に組み立てられるセットにしました。

【セット内容】

- 弊芯棒、竹製扇（針 2 本入り）
- しめ（紅白 1 対）、しめ（白大 1 対）
- しめ肩骨、麻紐（極太）、上棟式用祝詞
- 寿の祝紙、水引き（紅白 2 本）
- 雨天用ビニール袋、白紙、その他



桧貼神棚セット

桧の高級無節材を使用した神棚。
日々の暮らしを祈るのに相応しい荘厳な仕上がりです。

【セット内容】

- 幕板 1 枚、棚板 1 枚
- 柱 2 本、棚受棧 1 本
- 取付金具 1 式
- ※お宮や鏡などは付属しておりません



縁起物コラム

神棚はどこに祀るのが良いの？

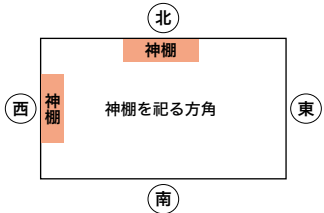
神棚は、室内の最も清らかで明るい場所、かつ家族全員が親しみやすくお供えしたり、拝礼したりするのに都合の良い場所を選びます。
高さは目の高さ以上のところに、方角は一般的に、神様・仏様が南・南東・東を向くように設けます。

南向き・東向きが良い理由

南は、太陽の光が最も当たることから明るさの象徴と考えられています。そのため、昔から位の高い人は南に向かって座っていました。
神様の分身であるお札を祀る神棚は、私たちよりも位の高い存在です。南の方角を向いて祀ることで敬意を示す意味があります。
東は、太陽が昇ってくる方角、つまり 1 日が始まる方角として、勢いがあることの象徴と考えられています。

南向き・東向きが難しい場合

家の作りや家具の配置などで、南や東向きにお祀りすることが難しい場合は、無理にその方角を向けて祀る必要はありません。
南向き、東向きが良いとされるのは、一般的にその方角が吉とされているからで、北向き、西向きにダメな理由があるわけではないのです。



お問合せは、ジャパン建材各営業所までお願いします。

今年の十干十二支

己亥 (つちのとい)



今年の十干十二支は己亥（つちのとい）です。十干とは太陽の運行を基準にして日の出から日の入りまでを10等分し、そこに生命の生から死までを投影して表現したものであり、十二支とは月の満ち欠けを基準にして同じ様に生命の循環を投影したものです。この太陽と月という2つの異なる成長サイクルを組み合わせ、万物の生命の理を表現しようとしたのが干支です。表紙で小川も紹介しておりますが、己亥は自己の内面にある本質的な部分を整然と正すべしと解釈されています。次の干支である子年が「新しい命が植物の種子の中に生まれた状態」を意味するので、亥年は「次のステージに向けた準備期間」といったところでしょうか。

前回の己亥の年は1959年。この年は天皇陛下と美智子様のご成婚の年です。己亥でご結婚された天皇陛下が、60年後の2019年に天皇を退位されるのは、なんとも不思議なめぐり合わせを感じます。他にもNHK教育テレビ・フジテレビジョンの放送の開始、週刊少年マガジン・週刊少年サンデーの同時創刊、日本人初ミス・ユニバースの誕生など、今後の足がかりとなる出来事が多くある印象です。前述したとおり、2019年は皇太子徳仁親王が即位されるに伴い元号が変わります。子年に向けて新たな時代が始まる予感がします。

弊社もお取引先各社様と共に、今後の成長・飛躍の端緒となるような提案活動を行ってまいります。

本年も旧年に倍するお引き立て並びにご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

合板 天気図



晴れ

ジャパン建材 合板部
部長 猪爪 清和

新設住宅着工戸数

2018年10月は83,330戸（前年同月比0.3%増）で先月の減少から再びの増加となった。

その内、木造住宅は50,211戸（同比2.4%増）で3カ月連続の増加となった。季節調整済年率換算値は95.0万戸で前月比0.8%増、3カ月ぶりの増加となる。

利用関係別では持家が25,949戸（前年同月比4.6%増）で先月の減少から再びの増加、貸家は35,225戸（同比7.3%減）で2カ月の連続の減少、分譲は21,394戸（同比9.2%増）で3カ月連続の増加となった。分譲の内訳はマンションが8,604戸（同比14.9%増）で3カ月連続の増加、戸建ては12,556戸（同比5.9%増）と7カ月連続の増加となった。貸家は減少したが、持家および分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比0.3%の増加となった。

国内合板の供給量

10月は27.5万㎡（前月比104.7%、前年同月比98.3%）と発表された。その内、針葉樹合板の生産量は26.4万㎡（同比104.4%、98.4%）となり、出荷量は28.0万㎡（同比115.8%、102.4%）で在荷量は18.3万㎡と9カ月ぶりに減少し、出荷量は過去最高となった。

輸入合板の供給量

10月は27.6万㎡（前月比133.7%、前年同月比119.2%）となった。国別入荷量はマレーシアが11.0万㎡、インドネシアが8.5万㎡、中国が5.6万㎡となっており、若干多めに感じるが9月の入荷量と割ると平均的な入荷量であった。

今後の見通し

国内針葉樹合板10月度の出荷量28.0万㎡と過去最高の数量となり、在荷量が減少、11月も好調な出荷量に支えられ更に減少すると思われる。非構造用合板も大幅に増加しており、引続き継続されていくと思われる。12月以降の需要を考えると、これからもしばらく強気で推移していき、今後の需要増加局面で品不足による混乱が起きると思われるので、多少先の必要量も確保しておいたほうがよいだろう。

輸入合板の産地状況は、地域によって若干違いはあるが、原木供給は順調で、遅れていた契約残も消化された。マレーシアでは最低賃金引上げと伐採税上昇より価格は強気が継続されると思われる。国内では港倉庫で人手不足による入荷作業能力低下が起きており、また倉庫スペース不足もあり入港量減少が予想される。

国内・輸入共に晴れの状況が続くと思われる。